

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程(工業)	IT システムエンジニア学科	夜・通信	170 単位	9 単位	
	インフォメーションテクノロジー学科	夜・通信	124 単位	6 単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表
<https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表

<http://www.sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	I T企業管理職	2024. 6. 7 ～ 2026. 6. 6	「カリキュラム」に関するアドバイス
非常勤	自営業	2024. 6. 7 ～ 2026. 6. 6	「経営」及び「組織運営」に関するアドバイス
非常勤	地方議会議員	2024. 6. 7 ～ 2026. 6. 6	「人材育成」に関するアドバイス
非常勤	I T企業代表取締役	2024. 6. 7 ～ 2026. 6. 6	「カリキュラム」に関するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画(シラバス)の作成過程 科目ごとの授業目標を設定し、目標達成のために何を教えるべきか、どの期で教えるべきか否かなどを実務経験のある教員を中心に検討を加え、現場で必要とされるスキルや知識などについて編集します。2期あるいは3期にまたがる継続科目は、期ごとの授業目標および科目終了時の到達目標を決定します。 また、各科目は半期毎の授業終了後に見直しをかけ、PDCAサイクルを取り入れ、より実践的かつ社会で必要とする知識やスキルを教えることに取り組んでいます。 ・授業計画書の作成・公表時期 授業計画は毎年11月頃から準備をはじめ、2月上旬完成を目指し、カリキュラム検討委員会で決定していきます。 ・授業の方法(講義、演習、実習) 授業方法は、講義、実習、演習の形態で実施します。 ・授業の内容(授業科目の概要) 授業計画書(シラバス)に掲載されており、計画の通り実施します。各科目の授業概要は開示請求があれば本校にて閲覧できます。(2024年4月までに本校Web上で公開中) ・年間の授業の計画(授業回数とスケジュール) 各科目の授業計画(シラバス)に詳細を掲載しています。	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・評価基準 評価基準に対しては、開講前の履修ガイダンス、最初の授業内でも評価方法及び評価基準を学生に伝えるとともに、資料を用意し周知を図っている。 ・積み上げ科目の履修 科目によっては連続する科目がある。例えば、科目Aを単位習得していないと科目Bを履修できないなどの履修条件を設定している。 ・成績評価 成績評価においては上記の「成績評価の方法・基準」に基づき厳格に実施する。 また、評価の統一性を保つため、試験の難易度、実施方法、評価方法について定期試験ごとに講師間の統一をはかっている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・GAPに基づく客観的な指標を用いて各学生が所属学科の学年内でどの位置にいるかを客観的に把握できるようにする。その際、GPAの算出方法をサンプルで示し理解を求める。各個人のGAPは「成績の分布を示す資料」で本人の位置を示すとともに、今後の学習指導に役立つよう個人面談、三者面談にて伝える。 ・評価方法は5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が科目の合格点となり単位認定される。D評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。 ・評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度、出席点など科目担当講師が複数のデータを組み合わせて行う。全ての科目評価データが整った時点で単位認定会議を開催し単位の認定を行う。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定は、全学科を通して必修科目が単位認定されていること。総単位数及び総授業時数がクリアされていることが必要となる。 3年課程のITシステムエンジニア学科の卒業基準単位数は、一般科目、専門科目を合わせて120単位以上、かつ授業時数2,700時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 2年課程のインフォメーションテクノロジー学科の卒業基準単位数は、一般科目、専門科目を合わせて80単位以上、かつ授業時数1,800時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 進級条件は、各学年で配当されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修しなければならない。学生には、入学ガイダンス時に、資料を用いて詳細に説明する。また、年度末の個人面談にも、取得単位、出席時数について確認し合い、今後の履修科目の取得指針とし、卒業要件を意識させている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公表 https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	IT システム エンジニア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,700 単位時間 ／120 単位	930 単位時間 /62 単位	1,890 単位時間 /84 単位	720 単位時間 /24 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,540 単位時間／170 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		100 人	0 人	2 人	4 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業方法は、科目内容に講義、実習、演習の形態で実施される

- ・授業の内容（授業科目の概要）は、授業計画書（シラバス）に掲載されており、教務計画の通り作成し、学生に展開をしている。授業計画書は本校 Web 上で公開する。
- ・年間の授業計画は、前期 15 週、後期 15 週の授業週間をとり、その他学校行事日程を組み込む。学校行事日程は授業計画書（シラバス）と一緒に学生に展開される。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価方法は該当科目について出席 80%以上の学生に対し成績評価がなされ 5 段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が単位認定され、「D」評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。
評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) IT システムエンジニア学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目および専門科目を合わせて 120 単位以上かつ授業時数 2,700 時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 進級条件は、各学年で設定されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修となることから留年が確定となる。
学修支援等
(概要) 前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講実施、資格試験対策も同様に実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (92.0%)	2 人 (8.0%)
(主な就職、業界等) IT 企業（プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニア等）			
(就職指導内容) 一般常識、履歴書作成指導（志望動機、自己PR、得意科目など）、面接練習等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家試験（基本情報技術者試験など）、民間資格（サーティファイ検定：Word、Excel、Access、PowerPoint、Web クリエイタ、Java 言語検定、C 言語検定など）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104 人	2 人	1.9%
(中途退学の主な理由) 精神的な面で体調が悪化、出席率悪化等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生やメンタル的に問題がある学生に対する面接及び指導、保護者への連絡を行い学校と家庭が連携して指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	インフォメーション テクノロジー学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1, 800 単位時間 ／80 単位	810 単位時間 /54 単位	1, 230 単位時間 /56 単位	420 単位時間 /14 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2, 460 単位時間／124 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		23 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業方法は、科目内容に講義、実習、演習の形態で実施される

- ・授業の内容(授業科目の概要)は、授業計画書(シラバス)に掲載されており、教務計画の通り作成し、学生に展開をしている。授業計画書は本校 Web 上で公開する。
- ・年間の授業計画は、前期 15 週、後期 15 週の授業週間をとり、その他学校行事日程を組み込む。学校行事日程は授業計画書(シラバス)と一緒に学生に展開される。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価方法は該当科目について出席 80%以上の学生に対し成績評価がなされ 5 段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が単位認定され、「D」評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。
評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

インフォメーションテクノロジー学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目および専門科目を合わせて 80 単位以上かつ授業時数 1,800 時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。
進級条件は、各学年で設定されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修となることから留年が確定となる。

学修支援等

（概要）

前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講実施、資格試験対策も同様に実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (87.0%)	3 人 (13.0%)
(主な就職、業界等) IT 企業（プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニア等）			
(就職指導内容) 一般常識、履歴書作成指導（志望動機、自己PR、得意科目など）、面接練習等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家試験（基本情報技術者試験など）、民間資格（サーティファイ検定：Word、Excel、Access、PowerPoint、Web クリエイタ、Java 言語検定、C 言語検定など）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	4 人	10.8%
(中途退学の主な理由) 精神的な面で体調が悪化、出席率悪化等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生やメンタル的に問題がある学生に対する面接及び指導、保護者への連絡を行い学校と家庭が連携して指導を行っている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
IT システム エンジニア学科	250,000 円	580,000 円	420,000 円	(その他の内訳) 施設費
インフォメーション テクノロジー学科	250,000 円	580,000 円	420,000 円	(その他の内訳) 施設費
修学支援（任意記載事項）				
母子・父子世帯支援、再進学支援、家族支援 該当者は、初年度に 10 万円を支給				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
(1)本校の教育活動、学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、教育方針、カリキュラム、授業運営、就職結果等について改善を図り、社会に必要な人材を育て送り出すことを目的としている。 (2)実施は年に一回、年度終了後4カ月以内に委員会を実施する。 (3)委員会は、3名の外部委員で構成している。 (4)学校関係者評価委員は、業務について教職員による自己点検結果を集計し改善案、計画案を策定する。これを基に委員会に事前配布し委員会にて意見をいただき評価と修正を行う。 (5)評価いただいた結果で、改善が必要な項目については優先順位を決め、学校長を責任者として早期に実施する。時間を要する事柄については内部委員で計画案を策定し段階的に実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人監事	2024年4月1日～ 2026年3月31日	業界関係者
大学講師	2024年4月1日～ 2026年3月31日	業界教育関係者
IT教育講師	2024年4月1日～ 2026年3月31日	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.sapporo-mirai.ac.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H101310100067
学校名 (〇〇大学 等)	札幌情報未来専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 桑園学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		43人（－）人	43人（－）人	40人（－）人
内訳	第Ⅰ区分	22人	23人	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－	－	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				40人（－）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期	
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人	
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人	
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人	
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人	
計	0人	0人	0人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	—	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	—	0人	0人
計	—	—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。